

# 伊豆大島におけるドライティルト観測\*

(1990年10月)

工業技術院地質調査所

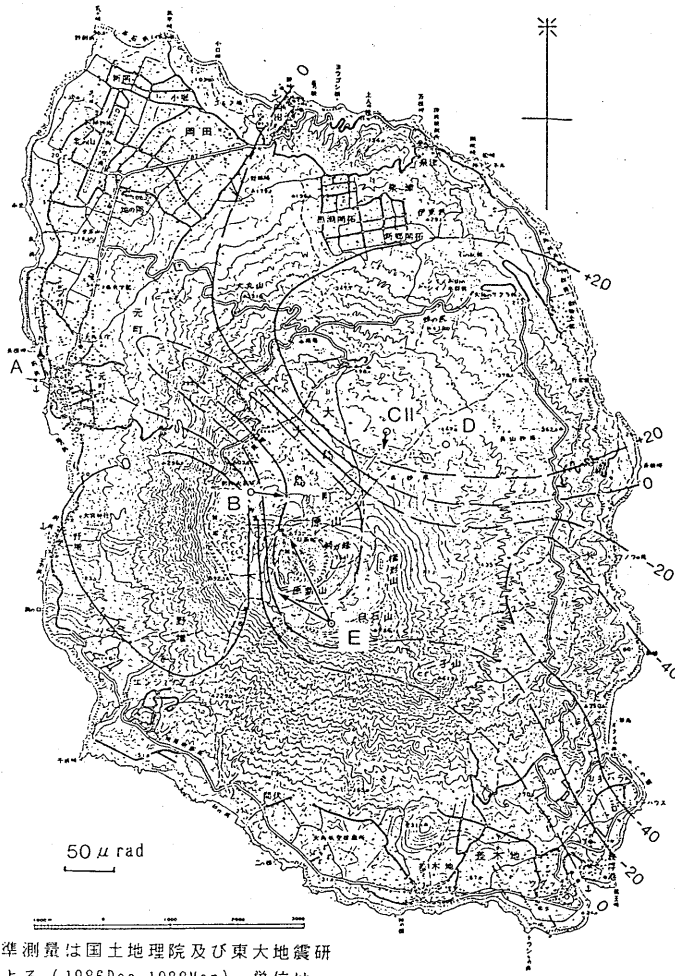
1. 1990年10月22～23日に、A観測網とB観測網について噴火後14回目の観測を、D観測網とE観測網については噴火後13回目の観測を行った。CⅡ観測網で、9回目の結果を得た。
2. 1990年10月に実施したドライティルトの結果を第1図に示す。矢印はDown tiltingの方向を示す。変動量は矢印の長さで示した。
3. 第2図に各観測網における観測開始からの最大傾斜の方向と傾斜量の変化を示す。1990年2月から1990年10月の間(242日間)の変動量は、A観測網では北下がり、変動量は $6.1\mu\text{rad}$ であった。B観測網では、東南東下がり、 $34.5\mu\text{rad}$ 、CⅡ観測網では南下がり、 $15.9\mu\text{rad}$ であった。D観測網では北下がり、 $3.2\mu\text{rad}$ であった。
4. E観測網は、1985年の観測開始以来、単一の解ではなく、2つの解が得られていたことはすでに述べた。E観測網北半部(E1)はこれまでと同様に北北西下がりの傾向で $98.1\mu\text{rad}$ 、南半部(E2)では北西下がり、 $64.3\mu\text{rad}$ の変動であった。
5. 第3図に示した変動速度の変化を見ると、E1観測網では $40\mu\text{rad}/100$ 日台に、E2観測網では $26\mu\text{rad}/100$ 日、B観測網では10数 $\mu\text{rad}/100$ 日に収束している。
6. 以上の結果から、三原山を中心にほぼ一定の速度で沈降が継続していることを示している。

地質情報センター 斎藤 英二  
環境地質部 曾屋 龍典

---

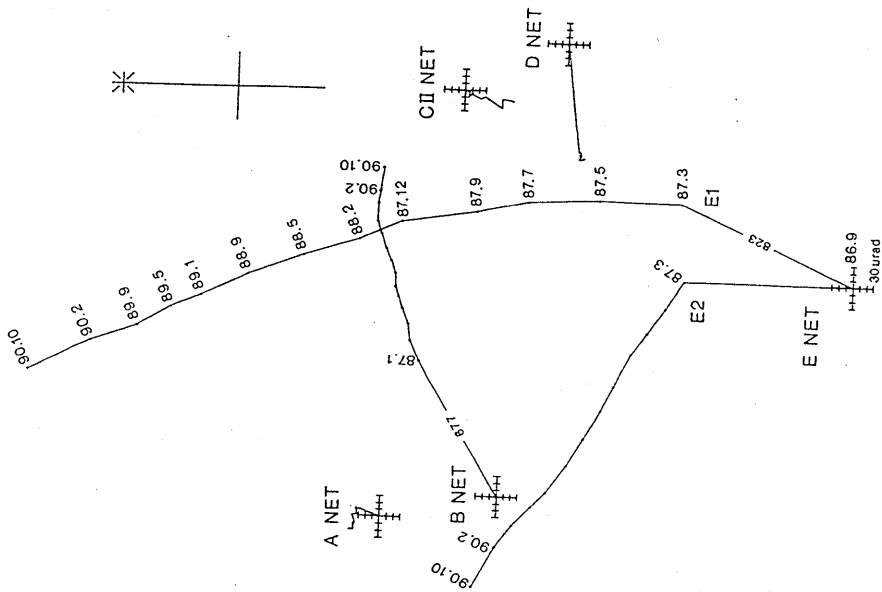
\* Received 20 Mar., 1991

90 Feb - 90 Oct



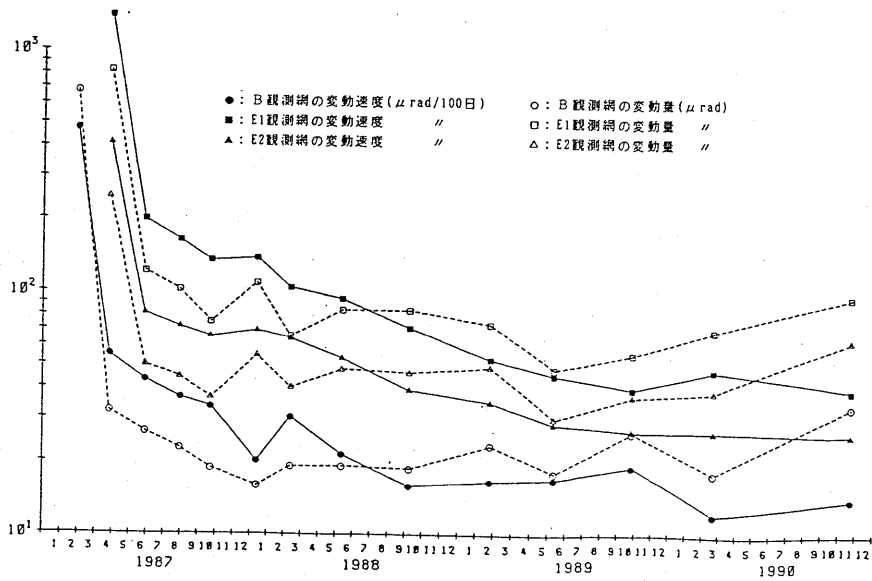
第 1 図 各観測網における最大傾斜 (Down tilting) の方向

Fig. 1 Localities of survey nets and azimuths of down tilting during Feb. 1990 and Oct. 1990.



第 2 図 各観測網における最大傾斜 (Down tilting) の方位と傾斜量の変化

Fig.2 Vector diagram of tilt.



第 3 図 B, E1 及び E2 観測網における噴火後の変動量および変動速度

Fig.3 Changes of tilt and tilting rate after 1986 eruption at B and E nets.